

徳島大学

サマープログラム2018報告書



〈編集〉

徳島大学サマープログラム等実施委員会
Summer Program Organizing Committee
Tokushima University

巻頭言

2018（平成30）年度は3部局において徳島大学サマープログラム・サマースクールを開催し、無事成功裡に終了することができました。本事業を連携・調整する立場にあるサマープログラム等実施委員会委員長として、各部局において本事業を企画・実施いただいた担当の教職員の皆様、参加された大学院生・学部学生の皆様には、まずもって敬意を表しお礼を申し上げます。

徳島大学サマープログラム・サマースクールは、学术交流協定校等の学生・教職員を対象とし、夏休みを利用して、短期滞在を通じて各部局において実施されている特色ある教育研究の取り組みや地方都市、徳島の魅力を紹介し、将来の留学先としての徳島大学をアピールすることを目的にしています。同時に本学の学生にも参加を呼びかけ、在学生のグローバル化、キャンパスのグローバル化も目指しています。

徳島大学では、2007（平成19）年、大学院先端技術科学教育部、国際連携教育開発センターの主催により最初のサマースクールが開催されました。翌2008（平成20）年、本学は文部科学省による「大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援）」の1つ「交流プログラム開発型」事業に採択されました。文部科学省支援の下、同年、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部とソシオテクノサイエンス研究部の主催による2コースのサマープログラム・サマースクールが開催されました。2012（平成24）年から国際センターおよび総合科学部サマースクールが実施されるようになりました。この間、2010（平成22）年には国際センター主導により、中国大連理工大学日本語教員研修コースと中国大連理工大学ソフトウエア学院学生日本文化体験・IT技術研修コースが実施されています。また、これらサマープログラム・サマースクールの事務は当初より国際課が中心となり、国際連携教育開発センター事務、各部局事務の協力を得てきました。

2012（平成24）年にサマープログラム等実施委員会が設置され、以後、本事業は全学的に取り組み、実施されるようになりました。2018（平成30）年度の徳島大学サマープログラム・サマースクールは本報告書にまとめられているとおり、海外からの学生や引率教員、本学の学生、地域住民、地元高校生等を合わせ、約140人が参加しました。今後、本事業をさらに魅力的なものにするとともに、その成果が現れ、海外からの留学希望者が増加することが期待されます。また、本学の日本人学生の海外留学意欲が向上することも望まれます。そして本事業が徳島大学のグローバル化教育の推進に少しでも役立てば関係者にとって望外の喜びとするところです。

最後に本年度のサマープログラム・サマースクールの実施にご尽力を賜った各部局の教員各位、事務職員の方々に深く感謝申し上げます。

平成31年3月
サマープログラム等実施委員会委員長
金 成海

内容

1	サマープログラム2018	1
2. 1	総合科学部サマープログラム.....	5
2.1.1	目的.....	7
2.1.2	日程.....	7
2.1.3	講義概要.....	7
2.1.4	エクサカーション	8
2.1.5	修了証書.....	9
2.1.6	アンケート集計結果.....	10
2.1.7	成果報告.....	15
2. 2	先端技術科学教育部サマースクール.....	17
2.2.1	目的.....	19
2.2.2	日程.....	19
2.2.3	講義概要.....	21
2.2.4	エクサカーション	23
2.2.5	修了証書.....	25
2.2.6	アンケート集計結果.....	26
2.2.7	成果報告.....	28
2. 3	国際センターサマースクール「徳島であおう！」	29
2.3.1	目的.....	31
2.3.2	日程.....	31
2.3.3	講義・活動概要.....	34
2.3.4	エクサカーション	35
2.3.5	修了証書.....	37

2.3.6 アンケート集計結果.....	38
2.3.7 成果報告.....	49
3 総括	51
4 今後の課題とまとめ	52
5 担当者一覧.....	56
サマースクールTシャツ	58

1 サマープログラム2018

1. 1 サマープログラムの目的

- (1) 徳島大学を海外にアピールし、海外から見た本学の価値を高める
- (2) 学術交流協定校との関係を強化する
- (3) 将来の優秀な本学留学生確保につなげる
- (4) 徳島および日本を知ってもらい、徳島・日本を身近に感じてもらう
- (5) 徳島大学の教員、職員、学生の国際化を図る
- (6) 英語による授業を拡充する

1. 2 沿革

(1) 2008 (H20) 年度

6月 文部科学省「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援；交流プログラム開発型）」に「英語力を基盤とする新国際化教育プログラム—サマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進—」が採択された。

8月「サマープログラム2008」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～3月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② リサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(2) 2009 (H21) 年度

8月「サマープログラム2009」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～12月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム

- ② サマーリサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(3) 2010 (H22) 年度

8月「サマープログラム 2010」として4コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)
- ③ 中国大連理工大学日本語教員研修コース (新蔵地区・常三島キャンパス)
- ④ 中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コース (常三島キャンパス)

(4) 2011 (H23) 年度

7月～8月の間に「サマープログラム 2011」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)

(5) 2012 (H24) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(6) 2013 (H25) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(7) 2014 (H26) 年度

7月～2月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(8) 2015 (H27) 年度

7月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② 医歯薬学研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(9) 2016 (H28) 年度

7月～8月の間に3コースを実施した。

- ① 総合科学部サマープログラム (常三島キャンパス)
- ② 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (常三島キャンパス)

(10) 2017 (H29) 年度

7月～8月の間に3コースを実施した。

- ① 総合科学部サマープログラム (常三島キャンパス)
- ② 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (常三島キャンパス)

1. 3 実施概要

開講コース	総合科学部サマープログラム 2018（平成30）年7月17日～8月9日 先端技術科学教育部サマースクール 2018（平成30）年7月29日～8月9日 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 2018（平成30）年8月6日～8月13日 各コースともに、海外の学生を対象とした英語又は日本語による短期集中講義等を実施して、本学の学生を共に参加させる。
開講場所	徳島大学 常三島キャンパス
対象学生	・ 学術交流協定校等からの留学生・教員 ・ 本学学生
主な内容	担当教員による講義、課外活動

1. 4 単位の認定

徳島大学で短期集中講義等を実施し、受講者に修了証書を発行

受入留学生：派遣元大学で将来単位認定が可能〈全コース〉

徳島大学生：先端技術科学教育部サマースクール 国際先端技術科学特論Ⅰ 2単位

2. 1 総合科学部サマープログラム

Summer Program of Tokushima University, Integrated Arts and Science Course

2. 1 総合科学部サマープログラム

2.1.1 目的

地域社会のグローバル化が進行する中で、若い世代の異文化に対する理解力・コミュニケーション力養成が課題となっている。殊に、新しい時代に必要な価値観を創造して、グローバル社会で活躍できる人材の育成が、大学に課せられた大きな課題となっている。

徳島大学総合科学部サマープログラムでは、育達科技大学（台湾）を始めとする学術交流協定校から留学生を迎え、講義内での交流やエクサクションを通じて、本学の学生と交流する。学生同士の対話を通じて、お互いの言語や文化を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、お互いの立場を尊重した異文化理解を深めることが、本プログラムの目的である。

また、本プログラムでは、大学のキャンパス内にとどまることなく、三好市祖谷、美馬市脇町といった県西地域に赴き、地域の抱える諸課題を知る場を設け、その解決方法について考察を深める場としている。また、池田高校、脇町高校、黒地児童館にも赴き、高校生や小学生との交流を行なった。さまざまな地域に赴き、異なる世代との交流を実施することで、留学生、小学生、高校生にとっても、異文化理解に対する興味を高める好個の機会となることが期待される。

本プログラムにおける種々の交流活動を契機として、本学の学生が、交換留学などの制度による留学に興味をもつようになることも、期待されることである。

2.1.2 日程

2018年7月17日(火)～8月9日(木) 参加学生数6名

(うち一名は、都合で7月25日に帰国)

2.1.3 講義概要

- 教養教育（世界の中の日本語、日本語の敬語）での交流授業
- 総合科学部専門科目（総合科学実践プロジェクトB、日本語演習、日本語表現の基礎）での交流授業
- 日本語による研修報告会



「世界の中の日本語」言語交流

2.1.4 エクスカーション

○ 小学生・高校生との交流会

7月20日(金) 脇町高校での交流会、高校生とのうだつの町並み見学、藍染め体験

7月27日(金) 池田高校での交流会、高校生との祖谷訪問（落合集落、かずら橋）



池田高校との交流

8月8日(水) 黒地児童館（阿南市）
における小学生との交流



2018年8月17日付徳島新聞より

○ 学外施設等訪問

7月21日(土) 阿波踊り会館

7月23日(月) 眉山、遍路体験（霊山寺、極楽寺）、鳴門公園

7月25日(水) 大塚美術館

7月31日(火)～8月1日(水) 岡山、倉敷（後樂園、岡山城、倉敷美観地区）

8月3日(金)～8月5日(日)

神戸（神戸港など）、大阪（大阪城など）、京都（伏見稲荷など）



FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES
TOKUSHIMA UNIVERSITY

1-1 Minami-Josanjima, Tokushima 770-8502 Japan

1 November, 2018

CERTIFICATE OF COMPLETION

Name: ○ ○ ○ (× ××)

Date of Birth:

This document certifies that the student mentioned above has successfully completed the following programs.

Program

Title: Summer Program of Tokushima University

Course: Integrated Arts and Sciences course

Professor: MURAKAMI, Keiichi, YOSHIOKA, Koyu

Period: 17th July 2018 – 9th August 2018

Hours: 90h

Signature

KURISU, Satoshi

Dean

Faculty of Integrated Arts and Sciences
Tokushima University

2.1.6 アンケート集計結果

【本学学生の感想から】

○総合科学部3年生

1年生の春に台湾研修に行ったときに仲良くなった学生と話しました。2年ぶりに会ったその学生は日本語もすらすらと話せていて、自分が今勉強している内容を得意げに見せてくれました。夢中に勉強していて、そのことが羨ましいなと思いました。自分も今やるべきことにもっと力をいれていこうと感じました。

○総合科学部2年生

約5ヶ月ぶりの台湾の学生との再会はとても感動的なものだった。お互いに名前を呼び合って再会を喜んだ。SNSが主流になった今、国境を越えてのコミュニケーションは簡単で現状を知ることができるが、実際に会うことに勝るものはないと感じた。一緒に夕飯を食べに行き、日本食を堪能してもらったりお互いの近況報告をしたりした。またいつか会える日を楽しみに彼らが日本語の勉強に励んでいるように私も中国語の勉強を頑張りたいと思った。

○総合科学部2年生

夏季のプログラムでは台湾の育達科技大学から学生が5~6人徳島大学に来た。歓迎会から始まり、徳島大学での村上先生による日本語に関する授業を受講したり、徳島県内について知ることができる観光などを行った。私たちが春季に参加した総合科学部のプロジェクトである育達科技大学への文化交流留学の際に、お世話になった日本語を勉強している学生たちも徳島に来ていて、再会できたことがとても嬉しかった。休日には台湾の学生が興味のある場所である神社やカフェなどへ一緒に出かけたり、台湾留学の際に案内してくれたお返しに徳島のことについて知ってもらいたいとみんなで徳島を紹介することができた。

今回、台湾からの学生たちを受け入れる側になって初めて自分の街を案内する楽しさやもっと知ってほしい、良い思い出を作って欲しいという感情を知ることができたし、台湾の友人たちに日本に来てもらえて、私たちにとっても台湾の学生たちにとっても貴重な良い経験になったと思う。

○総合科学部2年生

育達科技大学の学生達と直接関わったことから、多くコミュニケーションをとれたことや、普段感じない日本独自の文化が多くあることに気づくことができたのがとても新鮮だった。また、台湾の文化に触れたり、現地に行くことで台湾をより身近に感じることもできたのが嬉しかった。また、台湾は親日だったのでとてもみんな親切にしてくれ、日本をより誇りに思えるようになった。

【台湾学生の感想から】

徳島大学夏期研修に参加して

育達科技大学 林峻毅

今回の徳島大学の研修では、徳島大学の学生さんや徳島の高校生たちと交流しましたが、この交流を通して、台湾の文化と日本の文化の違いを知ることができました。

交流をする時、相手に対して失礼になってはいけないと、文法を間違わないようにしなければ、敬語を使わないと、と思えば思うほど、文法は間違ふは、正しい敬語は使えないはで、失敗ばかりしてしまいました。しかし、毎回、皆さんは、機嫌が悪くなるどころか、笑顔で、丁寧に、私の間違えた日本語を直してくれました。そして、私が言葉を聞き取れない時も、私が理解できるまで何度も簡単な言葉を使って言い直してくれたり、意味を説明してくれたりしました。徳島の方言についても、教えてくれたりしました。

交流以外にも、徳島の色々な場所を訪れたり、岡山や京都にも行ったりしましたが、台湾にはない景色、建物を見て、台湾文化との違いを色々知ることができました。町並みと人々の様子、お寺や神社の建物の形と参拝方法、庭園の構造と様子など、色々な点で台湾とは違っていました。気候の違いや歴史の違い、また、教育の違いなどによって、このような違いが生まれるのだろうなと思いました。

3週間の研修を通して、色々なことに気付かされました。もし、今回の研修に参加せず、ずっと台湾にいたら、こういったことに気付けないままでした。研修に参加して、改めて日本語の語彙力の足りなさを知るとともに、まだまだ日本文化についても、そして、台湾文化についても知らないということに気付かされました。これからは、日本語の勉強とともに、もっと日本文化についても学びたいですし、台湾文化についても、日本人や外国人にきちんと伝えられるよう、勉強し直さなければと思います。このように色々なことに気付けて、やる気を起こさせてくれた夏期研修に参加して、本当に良かったです。3週間毎日私たちをお世話くださり、色々なことを熱心に教えてくださった村上先生と徳島大学の学生さんたちには心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

徳島大学夏期研修に参加して

育達科技大学 彭紹威

今回、徳島大学の研修に参加して、徳島大学の学生さんや徳島の高校生たちとたくさん交流をしたり、色々な文化体験をしたりしました。

色々な文化体験の中で、一番印象に残っているものは、徳島の伝統工芸である藍染体験です。実は、台湾の客家文化にも藍染があります。以前、台湾の田舎で、藍染の布を使った服や小物が売られているのを見たことがありました。しかし、その時は、それが藍染だとは知りませんでした。今回、実際に藍染を体験して、それが藍染だったことを知りました。そして、藍染は藍という植物を使って染めること、染める前に布を糸でどのように縛るかによって出来上がった時の模様が全く違

ったものになることなどを知りました。初めて自分で作った藍染のハンカチは、徳島での研修の思い出として、これからも大切にしていきます。

研修の3週間、藍染以外にも、阿波踊りを体験したり、眉山や鳴門や祖谷のかずら橋に行ったりしましたが、徳島の文化を体験し、徳島特有の自然の景色を見られたことによって、徳島がどのようなところなのかを知ることができました。また、私たちが普段勉強している日本語は共通語と呼ばれるものですが、研修中に聞いた日本語は、ほとんどが徳島の方言でした。私の語彙力不足の問題もあり、聞き取れないことがありましたが、その時には、徳島大学の学生さんや高校の生徒さんが教えてくれました。徳島の方言も、研修に参加しなければ分からないことでした。このように改めて研修を振り返ってみると、台湾では体験できないことばかりだったと思います。貴重な体験ができた徳島大学の夏期研修に参加して本当に良かったと思います。このようにたくさんの方が学べたのも、村上先生と徳島大学の学生さん、高校生の生徒さんのおかげです。どうもありがとうございました。



徳島大学夏期研修に参加して

育達科技大学 周玟欣

今回、研修に参加し、徳島大学の皆さんや徳島の高校生の皆さんとの交流を通して、日本人の考え方や行動様式を学ぶとともに、台湾人である自分自身の考え方や行動についても改めて気付くことができました。

徳島大学の学生さんたちと交流するために初めて授業に入った時は、とても緊張しました。周りの学生さんたちは今まで会ったことのない人たちばかりだったので、上手く馴染めるかととても不安でした。しかし、徳島大学の学生さんたちのほうから声を掛けてくれ、色々と質問をしてくれたおかげで、すぐにその不安は消えました。質問に答えたり、質問をしたりする中で、日本の大学生たちの考えや生活について知ることができたり、台湾の大学生との違いに改めて気付かされたりもしました。

脇町高校の生徒さんたちとの交流の時は、お互いに緊張してほとんどしゃべれなかったのですが、お互いに「話したい」という気持ちは伝わり合っていたと思います。この脇町高校の生徒さん

たちは、私たちに「うだつの町並み」を案内してくれました。台湾にも日本時代の建物は残されていますが、「うだつの町並み」のようなものはありません。とても日本らしく感じるとともに、台湾人である私ですが、なぜかとても懐かしく感じられました。また、その他、印象に残っている場所は、四国八十八か所の一番札所の霊山寺です。このお寺を見た時の最初の印象は、台湾のお寺とは随分違うな、というものでした。台湾のお寺とは建物の造りも、中の様子や雰囲気も全く違いました。昔の日本の町並みの様子や、台湾の伝統文化との違いを知ることができ、とても有意義な時間でした。

3週間の研修期間中、徳島の伝統文化を体験したり、また、京都へ行って有名な神社やお寺にも行くなど、色々と日本の文化を知ることができました。そして、徳島大学の学生さんたちの優しさをたくさん感じました。いつも色々な場所へ連れて行ってってくれ、笑顔で話し掛けてくれ、分からない言葉を教えてくれ、本当に感動し通しの3週間でした。徳島大学の学生の皆さん、本当にありがとうございました。そして、いつも私たちのことを心配してくださり、お世話くださった村上先生、心から感謝いたします。



徳島大学夏期研修に参加して

育達科技大学 李柏勳

私は、徳島大学の夏期研修には昨年も参加したので、今回は2回目でした。研修は初めてではないと言っても、研修が始まる前は、自信を持つことができず、もし自分のしゃべった日本語が相手に理解してもらえなかったらどうすればいいのだろうと心配していました。しかし、実際に研修が始まると、やはり、2回目ということで、全く知らない、ということがなかったので、思っていたよりも落ち着いて行動できたし、話をする時も去年ほど緊張せずに話すことができました。また、2回目と言っても、徳島大学の学生さんも高校生の生徒さんも、初めて会う人も多かったし、初めて訪れる場所もあったりと、毎日、新鮮な気持ちでした。

研修期間中には、色々な場所を訪れました。どの場所もとても印象深いです。特に印象に残っている場所は、脇町高校の校庭にある「芳越歴史館」と、岡山県にある「後樂園」です。脇町高校の「芳越歴史館」では、脇町高校の百年以上の歴史について知ることができる他、写真や記述を通して昔の日本の高校や高校生たちの様子を知ることができ、とても興味深かったです。また、岡山の「後樂園」は、今回初めて訪れた場所ですが、台湾の庭園とは全く違う様子で、とても日本らしく、さすが、日本三名園の1つだなと思いました。もし、また、秋に訪れることができれば、きっと綺麗なんだろうなと思いました。

今回の研修も、日本の色々な文化を知ることができ、台湾ではできない色々なことを体験でき、とても充実した3週間でした。これも、毎日私たちのことをお世話くださり、日本について色々とお教えてくださった村上先生、徳島大学の学生さんたち、徳島の高校の生徒さんたちのおかげです。本当にありがとうございました。



2.1.7 成果報告

総合科学部専門科目（総合科学実践プロジェクトB、日本語演習、日本語表現の基礎）および教養教育科目（世界の中の日本語、日本語の敬語）での交流授業において、のべ300名の本学学生が参加した。身近な隣人であり、同世代でもある台湾からの留学生との交流を通じて、お互いの言語や文化を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、お互いの立場を尊重した異文化理解を深めることができた。

留学生にとっても、台湾で学んできた日本語、日本文化について、実際に使用し体験することで、自身の学びの再確認につながり、今後の進路や学びにも、大いに資するものになったと思われる。

授業以外の交流としては、夕方に、留学生が寄宿するしんくら会館にてCookingを実施した。留学生と日本人学生が共同で夕食を作り、食することで、その日の出来事やお互いのこと、将来のことを日本語で語り合った。回を重ねることで、本学学生が異文化や留学に対する興味を高めることにつながったものと思われる。

留学生は、例年、日本の文化体験や、地域見学の希望が多い。そこでエクスカージョンについては、日本の自然・文化・歴史・暮らし・環境・地域課題などを総合的に学習できるプログラムを準備した。

祖谷溪では、増加の一途にある外国人観光客を目の当たりにし、日本の地域社会、観光業が抱える問題点を実感した。将来、日本で働くことを希望する者もあり、またとない実践の場となった。日本の高校を見る機会はなかなかないため、教室、生徒の振るまい、それらのひとつひとつが新鮮であったように思われる。

総合科学実践プロジェクトJの1プロジェクトとして、春季に短期で育達科技大学へ学生を派遣するプログラムも継続しており、相互学生訪問により相互の親善が深まっている。本報告書内の学生による感想にはそうした学生同士の親密な関係が反映されている。さらに、育達科技大学においては、短期のプログラムを経験した後、交換学生として徳島大学に留学を希望する学生も増えている。

2. 2 先端技術科学教育部サマースクール

International Affiliated Double-Degree Program Summer School

2. 2 先端技術科学教育部サマースクール

2.2.1 目的

本プロジェクトは、7月最終週から8月第1週に大学院生を対象としたサマースクールを学術交流協定校と連携して開講し、外国大学から留学生を短期に受け入れ、環境・エネルギー技術に関する先端技術科学の授業を中心に英語で実施する。これらの授業は本学教員と外国大学教員が共同して受け持ち、本学学生も受講する。この短期受入プログラムでは、当教育部のグローバル大学院工学教育プログラムに準じたナノテクノロジーコース、電気エネルギー・情報工学コース、環境保全コースのサマースクールの講義内容の3つを柱とし、日本語のしくみ・日本文化を解説する講義や徳島の文化・技術を体験できるフィールドワーク、徳島県内企業が実施している環境・エネルギー対策の取り組みに触れる機会となるツアーを提供する。また、各留学生に対しては、興味や専門分野にマッチした本学研究室のインターンシップを実施し、将来本教育部のダブルディグリープログラム等で留学する動機付けを与える。

日本人学生に対しても、外国大学からの受入学生とともに講座やフィールドワーク、PBL型グループディスカッションを経験することで、実社会での問題解決に果敢に挑戦できる国際感覚を身につけた専門知識を持った高度な環境エンジニアを養成する。

2.2.2 日程

期間 2018年7月29日(日)～8月9日(木)

参加人数 52名

Nanotechnology and Material Science Course	20名
Electrical Engineering and Information Science Course	27名
Civil and Environmental Engineering	5名

大学別内訳

Harbin Institute of Technology	1名	}	中国	6名
NanTong University	2名			
Xidian University	3名			
Southern Taiwan University of Science and Technology	2名	}	台湾	3名
National Taiwan University of Science and Technology	1名			
徳島大学	43名			

Summer School 2018 >> Theme : Environment

First Week		
July 29 (Sun)	16:00 18:00	Registration
July 30	10:00 10:15	Opening Ceremony - Opening Speech : Masaki Hashizume (Dean of Science and Technology) - Opening Remark : Mikito Yasuzawa (Director, CICEE) - Group Photo
	10:25 10:55	Common Lecture 1: Satoshi Hashimoto (Tokushima University) "Japanese Communication"
	11:00 11:55	Summer School Orientation (Program and Informations): Pankaj Koinkar, Mikito Yasuzawa (CICEE)
	13:20 15:30	Common Lecture 2: Hiroshi Sakata (Tokushima University) "Japanese Local Government" and Tokushima Prefectural Government Tour
July 31	8:40 10:10	Group discussion : Topic Proposal "Environment" Pankaj Koinkar (CICEE)
	10:25 11:55	Group discussion on Environment (continue)
	12:50 14:20	Internship or Lab tour
August 1	8:40 10:10	Common Lecture 3: Ri-ichi Murakami (NTUST) "On the Social Mission of Science Engineering and Technology"
	10:25 11:55	Common Lecture 4: David Moreton (Tokushima University) "Tokushima History and Culture"
	12:50 16:00	Group discussion on Environment (continue) Oral Presentation slides preparation and Poster preparation
August 2	06:00 20:50	Field Trip 1: Japanese Culture Experience Hiroshima Itsukushima Shrine & Hiroshima Peace Memorial
August 3	9:00 9:30	Student Presentation 2 min Presentation (Two slides) /group
	9:30 12:00	Student Presentation Poster Presentation
	13:30 16:00	Panel Discussion (Teachers from abroad) Communicate and Discussion with Foreign Professors
August 4 (Sat)		Free / Science Festival
Second Week		
August 5 (Sun)		Free / Science Festival
August 6	9:00 17:00	Field Trip 2: Japanese Culture Experience + Factory tour Ohenro (Temple 21: Tairyuji) & Tachibanawan Thermal Power Station
August 7 (Open Campus)	9:00 12:00	Student Conference: Makoto Ohashi (Tokushima University)
	13:00 16:00	Student Conference: Makoto Ohashi (Tokushima University)
	18:00	Intercultural Party in Awa Kanko Hotel
August 8 (Open Campus)	9:00 18:00	Field Trip 3: Japanese Culture Experience + Factory tour Panasonic Factory & Otsuka Factory & Naruto Whirlpool
August 9	9:00	Student Free Presentation
	12:00	Closing Ceremony

2.2.3 講義概要

実施期間 2018年7月29日（日）～8月9日（木）

大学院先端技術科学教育部が開講しているサマースクールは、平成30年度では本教育部に所属するダブルディグリーコースの学生36名および本学学生7名を加えた52名の受講生で開講した。本年度は、海外からの受講生への補助金の提供を行わないとの連絡を予め行っていたこともあり、海外学術交流協定校からの参加学生数は例年より少ない9名であった。7月30日の午前中は、開講式を行った後、サマースクールの参加全学生による自己紹介、近い将来発生が予測がされる「南海トラフ地震」、日本語表現・会話の講義を行った。午後からは日本の地方行政に関する講義の後、徳島県庁に移動し、施設見学を行った。7月31日からは、環境をメインテーマにした工学と理学を融合させたSTEM講義、また約6名のグループに分かれて行うPBL型グループディスカッション、更には、ディスカッション内容をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う発表会も開催した。また、本年度の新たな試みとして、本学の外国人教員5名がパネリストとなり、それぞれが本学で働くことになった経緯や動機について話すと共に、どのようにしたら留学生が増えるか、また、どのようにしたら海外に派遣する学生数を増やすことができるかをテーマにディスカッションを行った。



開会式



講義の様子



講義の様子

SUMMER SCHOOL 2018

Panel Discussion

FRIDAY, AUGUST 3, 2018 13:30 to 16:00
at Kogyo-Kaikan Memorial Hall (2F)

- I INTRODUCTION OF PANELISTS
- II WE WANT MORE FOREIGN STUDENTS IN TU!
- III WE WANT MORE TU STUDENTS STUDY ABROAD!
- IV GLOBALIZATION OF TU

Panelist:

Jin-Ping Ao (China)	Electrical and Electronic Engineering
Stephen Githinji Karungaru (Kenya)	Computer Science
Pankaj Koinkar (India)	Optical Science
David Moreton (Canada)	Japanese Cultural History
Antonio Norio Nakagaito (Brazil)	Mechanical Science

INTRODUCTION OF PANELISTS

1. Self-introduction.
2. Overall Experience in Japan.
3. What was your motivation to study and/or work in Japan?

WE WANT MORE FOREIGN STUDENTS IN TU!

1. Was the Japanese language barrier difficult to overcome?
2. What do you think about Japanese society?
4. Do you have difficulties communicating (verbal or non-verbal) in Japan?
5. How do you get involved or participate in Japanese society?
6. How is teaching Japanese students difficult from teaching students in your country?

WE WANT MORE TU STUDENTS STUDY ABROAD!

1. What advice can you give to students going abroad for the first time?
2. What are some good results of studying abroad?"
3. Do you think it is important for students to have good English skills?
4. What is necessary to build links and partnerships with schools outside Japan?

GLOBALIZATION OF TU

1. How can universities become more internationalized?
2. How can education be internationalized?"

2.2.4 エクスカーション

実施日 2018年8月2日(木)

厳島神社 → 広島平和記念資料館

実施日 2018年8月6日(月)

第21番札所 太龍寺 → 橘湾火力発電所(四国電力株式会社)

実施日 2018年8月8日(水)

パナソニック株式会社 徳島工場 → 大塚製薬株式会社 川内工場 能力開発研究所
→ 渦の道



厳島神社



原爆ドーム



第21番札所 太龍寺



橘湾火力発電



パナソニック株式会社 徳島工場



大塚製薬株式会社 川内工場



大鳴門橋



渦の道



徳島大学
Tokushima University

CERTIFICATE OF COURSE COMPLETION
Summer School 2018

Name :

Institution :

This attests that the holder of this certificate has successfully completed offered as part of the Summer School Program 2018. The program was organized by the Summer School Committee, associated with the Graduate School of Advanced Technology and Science, Tokushima University, Japan.

August 9, 2018

Sumihare Noji,
President
Tokushima University
Japan

Masaki Hashizume,
Dean
Graduate School of Advanced Technology and Science
Tokushima University
Japan

Summer School 2018 : Survey report

1. Which Summer school course did you apply for?

Electrical Engineering: 3 Environment: 3 Nano and Mat. Sci. : 2

2. Please indicate your educational level

Master : 7 Doctoral: 1

3. What were your reasons for attending Summer School? (you can choose more than one)

i.	The financial and accommodation support:	1
ii.	I want to attend this university in the future:	2
iii.	Because of the location of the University:	1
iv.	the choice of subjects and activities:	6
v.	I have friend who applied here too:	2
vi.	Other reason (please write)	1

4. How do you judge the quality in general?

		Excellent	Good	Average	Poor
i.	Overall Program	5	0	1	2
ii.	Quality of lectures	4	0	3	1

5. How do you evaluate the organization and planning?

		Excellent	Good	Average	Poor
i.	Accommodation	3	2	2	1
ii.	Social Event (field trip)	6	2	0	0
iii.	Overall Organization and planning	5	1	2	0

6. How do you classify the laboratory visits and/or exercises

	Excellent	Good	Average	Poor
	3	3	1	1

7. How much influence do you expect the knowledge & skills you learned at the summer school will have on your future?

	A great deal	A lot of	Moderate	A little
	2	4	2	0

8. As a result of the summer school do you think you are more or less likely to get involved in research that is interdisciplinary?

More likely	Likely	Less Likely	Not Likely
2	4	2	0

9. As a result of attending the summer school, to what extent were you able to achieve goals that are important to you?

More likely	Likely	Less Likely	Not Likely
2	5	1	0

10. Do you like to participate in future Summer Schools?

Absolutely yes	Maybe	No
6	0	2

11. The parts of field trip that you Liked Most ?

i. Japanese Culture Experience Hiroshima :	7
ii. Panasonic Factory & Otsuka Factory & Whirlpool:	7
iii. Thermal Power Station:	3
iv. Group Discussion:	2
v. Welcome party :	1

12. The parts of field trip that you Disliked Most ?

i. None:	5
ii. Ohenro temple visit:	1
iii. Panasonic Factory :	1
iv. Otsuka factory :	1
v. Hiroshima :	1
vi. County government:	1

2.2.7 成果報告

本年度も、本学の研究室へのインターンシップを実施することから、参加する学生に対して希望する研究室を記載するように促した（希望順で三つの研究室を記載）。その結果、ほとんどの学生から研究室名（教員名、もしくは当人の研究内容の情報）の記載があり、それらの情報をもとにインターンシップの受け入れ先の選定・承諾作業を行った。関連する各系・コースの国際連携教育開発センターの運営委員を通して対応していただいたところ、いずれの学生も関連する研究室においてインターンシップを実施することができた。インターンシップを実施方法については、それぞれの研究室に委ねたが、インターンシップの実施日以降も継続的に研究室を訪問する学生も見られ、大変有意義な行事になったと思われる。ご協力いただいた研究室の教員・学生の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、海外からの参加学生と在校生とが、より活発に交流することを目的に、環境問題をテーマにしたPBL型グループディスカッション並びにポスター発表会を実施したところ、グループディスカッション、ポスター発表共に活気に満ちており、良い交流の場となった。

本年度の新たな試みとして、本学の外国人教員5名をパネリストとしたパネルディスカッションを開催した。外国人教員が本学で働くことになった経緯や動機を聞くことは、これから日本に留学することを考えている学生だけではなく、本学の留学生が将来のことを考える上で非常に参考になったように思われる。また、フロアの学生からも多くの質問があり、非常に有意義なイベントと感じられたことから、来年度以降もパネルディスカッションを継続する予定である。

これまでは参加者が多かったことから実現できなかったパナソニック株式会社徳島工場の見学を行った。同工場ではテスラーをはじめとするEVやHVの電池を製造しており、そのラインを見学することができた。国際展開している企業だけあって、工場見学の説明は、全て英語で行っていただいた。また、工場内における環境に配慮した取り組みについての説明もしていただいた。

本年度は、橘湾火力発電所、パナソニック及び大塚製薬の工場見学を行ったが、参加者には日本の企業が如何に環境対策を重要視しているかを強く印象付けたのではないかと思われる。

2. 3 国際センターサマースクール

「徳島であおう！」

**International Summer School
at Tokushima University
Get together in Tokushima!**

2. 3 国際センターサマースクール「徳島であおう！」

2.3.1 目的

本サマースクールは、(1) 海外の協定大学から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、(2) 徳島大学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また日本人学生や地域住民と交流することで日本人と日本文化を理解してもらうこと、(3) 日本人学生や高校生を含めた地域住民が海外からの参加学生と共に活動することで国際的な視野を広げ、日本の外に目を向け、国際理解、多文化理解をすすめ、本学ならびに徳島地域のグローバル化を促進すること、(4) 様々な国や大学からの参加者が出会いお互い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促すこと、を目的として実施した。

2.3.2 日程

期 間：2018年8月6日(月)～8月13日(月) ※8月12日(日)に修了式を行った。
参加人数：83名(海外からの参加者：40名、日本人学生・本学留学生・高校生・地域住民：43名)

【中国】

・大連理工大学 18名 (引率1名を含む)

【フィリピン】

・セントポール大学フィリピン 7名

【ベトナム】

・ハノイ土木大学 6名

【インドネシア】

・ハントゥーア大学 8名

【ポルトガル】

・レイリア工科学院 1名

日程

1日目：8月6日（月）		
15:00-	徳島駅集合&ホテルオリエンテーション	
2日目：8月7日（火）		
9:00-10:00	受付、必要書類記入	共用室 302、303
10:00-11:00	開講式、オリエンテーション	共用室 302、303
11:00-14:00	日本人学生と交流、昼食、キャンパスツアー	常三島キャンパス
14:00-15:00	日本文化講義～徳島と遍路	共用室 302、303
15:00-16:00	日本文化体験～邦楽	共用室 302、303
16:00-17:30	ディスカッション・振り返り	共用室 302、303
18:00-20:00	合同交流会	阿波観光ホテル
3日目：8月8日（水）		
9:00-11:00	徳島ビジネス学習	大塚製薬（オロナミンC・ポカリスエット工場、能力開発研究所）
11:00-12:00	昼食	大塚製薬内食堂
12:00-17:00	徳島文化体験～藍染め体験など	藍の館・霊山寺・渦の道
4日目：8月9日（木）		
9:00-11:30	徳島文化体験（街散策・城東高校生と） A グループ：鷲の門→ひょうたん島クルーズ→徳島城公園（博物館・庭園見学）→徳島大学 B グループ：鷲の門→徳島城公園（博物館・庭園見学）→ひょうたん島クルーズ→徳島大学	鷲の門・ひょうたん島クルーズ・徳島城公園
5日目：8月10日（金）		
10:00-12:15	徳島文化体験（地域サポーターと） A グループ：茶道→書道 B グループ：書道→茶道	日亜会館講義室 しんくら会館和室
12:15-14:00	移動・昼食	
14:00-	研究室訪問	
6日目：8月11日（土）		
7:00-10:15	ホテルチェックアウト、高松へ移動	
8:00-17:00	日本文化見学・体験旅行 丸亀城 見学 中野うどん学校 うどん作り体験・昼食	丸亀城・中野うどん学校・ゆめタウン高松

	ゆめタウン高松 自由行動	
7日目：8月12日（日）		
7:45-10:00	ホテルチェックアウト、徳島大学へ移動	
10:00-10:15	阿波踊り講座	共用室 302、303
10:30-12:00	サマースクール全体の振り返りワークショップ	共用室 302、303
12:00-13:00	グループごとのプレゼンテーション・修了式	共用室 301
13:00-14:00	茶話会	共用室 302、303
14:00-20:00	自由行動（阿波踊り見学）	
20:30-22:45	神戸へ移動、ホテルチェックイン	神戸
8日目：8月13日（月）		
10:00-	ホテルチェックアウト・解散	神戸



合同交流会



サマースクールの振り返り発表（修了式）

2.3.3 講義・活動概要

実施期間 2018年8月6日(月)～8月13日(月)

場所 地域創生・国際交流会館 他(日程参照)

講師一覧

国際センター長	副学長(教育担当)	高石 喜久
国際センター教員	教授	金 成海
	教授	橋本 智
	特任教授	内藤 毅
	准教授	坂田 浩
	講師	TRAN HOANG NAM
	特任助教	福岡 佑子
	准教授(併任)	モートン常慈



2.3.4 エクスカーション

日時：2018年8月8日（水）

○企業見学（大塚製菓） 9:00 -11:00



○藍の館 藍染め体験 12:30-13:45



○霊山寺 14:00-14:30



○渦の道 15:05-16:15



日時：2018年8月9日（木）

○徳島文化体験 9:00-11:25



徳島城



ひょうたん島クルーズ

日時：2018年8月11日（土）

○日本文化見学・体験旅行 8:00-17:00



丸亀城



中野うどん学校

Tokushima University



THIS IS TO CERTIFY THAT

(NAME)

has completed
the course program
of
International Center Summer School
“SUMMER PROGRAM 2018”
August 6 – August 13, 2018

Sumihare NOJI, Ph.D.
President
Tokushima University,
JAPAN

Yoshihisa Takaishi
Chairman
Summer Program Organizing Committee
Tokushima University,
JAPAN

PROGRAM QUESTIONNAIRE

For International Summer School at Tokushima Univ.

2018

Please answer ALL items in this program questionnaire. In order to improve our future programs, your feedback is very important for us. ※38名回答

1) Please write your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

- 【中国】大連理工大学 17名
- 【ベトナム】ハノイ土木大学 6名
- 【インドネシア】ハントゥーア大学 8名
- 【フィリピン】セントポール大学フィリピン 6名
- 【ポルトガル】レイリア工科大学 1名

2) Did this program have a positive impact for your study or future career? If yes, please write the reasons.

- ・自分の研究分野だけでなく、自分の人生にもプラスの経験になった。今まで見たことのないことも多く、異文化に関して知見が広まった。
- ・このプログラムで他国の友人ができた。日本と中国の違いを学んだ。
- ・他国の学生と交流することで、世界への視点がもてた。
- ・日本文化を体験し、他国の学生と交流できたこと。
- ・日本の企業をはじめ、日本文化をたくさん学んだ。
- ・英語や日本語でコミュニケーションを取ることができた。日本文化をもっと知ることができた。
- ・このプログラムは日本文化を効率的に学べる良い方法だと思う。
- ・多くの友人と日本文化に出会えた。このプログラムを通して自分の視野が広がった。
- ・忘れられない経験となった。たくさんの外国人学生と出会い、日本文化を体験できた。素晴らしいかった。
- ・徳島で熱意や慎重さを学んだ。忘れられない経験になるだろう。
- ・英語力の実践と多くの友人ができたこと。
- ・自分の視野を広げ、異文化について多くを学んだ。
- ・日本文化を学び、多くの友人と出会えた。
- ・このプログラムで世界を意識するようになった。留学について考え始めた。
- ・宋先生の研究室を訪問し、日本でのソフトウェアに関して多くを学んだ。将来に関してクリアになった。
- ・徳島に来る前は、中国で早く修了したかった。今は、できるなら留学したい。
- ・他国の学生と交流できたこと。彼らから多くを学んだ。
- ・このカリキュラムで日本の文化、建築、交通システムを理解することができた。
- ・色々な所を訪ねることができた。
- ・このプログラムで多くを学んだ。
- ・このプログラムを通して、日本の伝統的な建築や生活様式をもっと話し合いたかった。
- ・このプログラムで自分の視野が広がり、日本や日本の土木の知識や物事の運営なども学んだ。
- ・将来は、エンジニアになります。
- ・テクノロジーや問題解決の考え方は、本当に素晴らしいかった。今後、より良くしたいとやる気になった。
- ・日本の歯科に関してやテクノロジーを知ることができた。また新しい環境になじむことや新しく

- 出会った人達との付き合い方を学んだ。
- 日本で研究を続ける理由になるだろう。
- 日本の歯科のテクノロジーを学んだ。彼らの技術は素晴らしかった。
- 多くの友人ができた。他国の人達とのコミュニケーションの取り方を学んだ。
- 多くの文化を学んだり、他の国からの参加学生や日本人学生と協力して学ぶことができた。
- 日本での新しい歯科技術に関して学べたので、今後の研究の手助けとなるだろう。
- 新しい文化（日本文化）や色々な文化を知ることができた。
- 自分の専門分野（言語と文学）に合っていた。この経験は今後の自分のキャリアの一助となるだろう。
- このプログラムで多くのこと、日本人の生活スタイルなどを知った。自分の身の回りを整えるとか、人として成長したい。
- 新しい環境に飛び込むことができた。文学を研究する時、その文化背景を知る必要があるから。
- 今後のキャリアやどの道を進むか、可能性のバックグラウンドをくれた。
- 異文化の中で、上手くやっていく知識を得た。
- 自分の研究分野に関するアイデアを得た。
- 今年、専門分野を変更するので、うどん作り以外は、特に大きな影響を与えることはないだろう。それでも参加できて良かったと思うし、また来たい。

3) How did you think about the following activities?

- 魅力的な内容で、日本文化について多くを学んだ。
- とても良いと思う。
- とても面白くて、興味深い。
- 一年に一度の素晴らしいイベントだと思う。
- とても楽しかった！
- プログラムの活動はすべて素晴らしかった。充分、経験できた。
- このプログラムは日本の様々な文化に関して新たな可能性を見せてくれた。
- プログラムの活動はすべて面白く、生産的だった。

- Tokushima Business Culture at Otsuka Factory

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (26名)	4 (8名)	3 (3名)	2	1(1名)

Comments:

- ちょっと退屈だった。
- できれば、もっとビジネスについて学びたかった。
- ちょっと疲れた。
- 企業訪問を楽しんだ。
- 工場見学はとても印象に残った。企業の考えに対して多くを学んだ。
- 大塚製薬が徳島では大企業だと知っているが、できれば日本文化にもっと時間を取ってほしかった。日本企業文化が目的だと思うが、もっと別の方法で知ることでもできると思う。
- 清潔で静か。
- 面白かった。工場内はよく管理されている。
- 完璧。
- 工場は大きく、秩序が保たれていた。
- 工場見学は良かったが、ちょっと短かった。
- もっと深く知りたかった。
- とても違っていた。大きな工場だった。
- クリエイティブなテクノロジーや巨大な飲料製造を見学できたのは素晴らしい経験だった。
- 日本の大塚製薬の工場を見学できたのは、良い経験だった。
- 本当に大きな会社で良いシステムとやる気になる言葉がある。
- ポカリスウェットが大塚製薬の製品だと初めて知った。
- 工場の成り立ちやブランドの裏にある想い（価値）は本当に忘れがたい。
- 製造過程を見学したり、大塚製薬の製品を知ることができた。

- ・有名なドリンクの一つが日本で作られていることを知った。
- ・良かった。“チャーリーとチョコレート工場”の健康バージョンのようだった。
- ・自分の考えが変わった。とても良い会社だ。長く続くのも当然だ。
- ・大塚製薬の理念を聞いて刺激を得た。
- ・見学中の説明はとても勉強になった。
- ・前半はさておき、後半は宣伝活動のようだった。

- Tokushima Local Culture Experience: Indigo Dyeing、 Ryozen-ji Temple、 Whirlpool Observation

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (33名)	4 (4名)	3 (1名)	2	1

Comments:

- ・徳島の文化はとても良い。
- ・今回のように地元の文化を知れるのは良い。もっとこういった活動があれば良いと思う。
- ・日本文化を楽しんだ。
- ・ちょっと暑かったが、日本人をより近く感じた。
- ・面白い体験だった。(2名)
- ・完璧。
- ・面白かったが、ちょっと疲れた。
- ・中国に戻っても思い出さだろう。
- ・ちょっと、ありきたりだった。
- ・素敵だった。楽しかった。
- ・徳島の事を知ることができた。面白かった。
- ・とても良かった。日本文化を深く知ることができた。
- ・一番、思い出に残る時間でした。
- ・良かった。
- ・とても良かった。日本人は親切だ。
- ・藍染と大鳴門橋は、今までで最高の体験。
- ・渦潮を見るのは興味深かった。
- ・徳島には多くの文化があり、本当に素晴らしかった。
- ・日本の歴史や徳島のことを知ることは本当に良い。
- ・藍染は私にとって新しい体験だった。
- ・素晴らしかった。
- ・日本文化を知る一助となった。
- ・藍染とお寺が良かった。
- ・藍染体験がベストだった。
- ・こういった体験ができるのは素晴らしいことだ。来れて嬉しかった。
- ・このプログラムで一番、面白かった。
- ・目新しい文化を体験できた。
- ・驚いた。
- ・徳島の大きなシンボルであり、文化だ。体験できて良かった。
- ・とても美しく、驚きである。
- ・渦の道は渦潮が見られなかったから、いま一つだった。それ以外は素晴らしかった。藍染はとても良かった。

- Learn the University: Campus Tour with Tokushima University Students and Lab. Visit

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (28名)	4 (7名)	3 (3名)	2	1

Comments:

- ・色々学んだ。
- ・できれば、日本人学生ともっと一緒に過ごしたかった。

- ・素晴らしかった。一番良かった。
- ・日本人学生はとてもフレンドリーで友達になれた。(3名)
- ・キャンパスツアーの時間がちょっと短かった。日本人学生ともっと話したかった。
- ・学生たちは知識豊富だった。
- ・有意義だった。中国の大学生生活との比較ができた。
- ・新鮮だった。
- ・日本人学生はもっと日本文化を紹介できると思う。
- ・日本人学生はとても親切でかわいらしい。
- ・日本で友人を作るチャンスをくれたことに感謝。
- ・中国人教授とお会いできてうれしかった。
- ・もっと時間が必要だし、人手も必要。
- ・施設、教育、ともに素晴らしい。
- ・徳島大学をより知ることができ、役立った。
- ・学生も施設も、全てがとても良かった。
- ・現代的で施設も充実している。学生は知的で親切だ。
- ・徳島大学生と会えた。
- ・歯科の研究室訪問は本当に良かった。ハントゥアには無いものも多くあった。
- ・研究室訪問は本当に嬉しかった。特にテクノロジー。
- ・大学病院は本当に大きく、学生も使える、素晴らしいテクノロジーを持っていた。
- ・徳島大学歯科研究室は素晴らしい。
- ・研究室訪問は時間的に短すぎた。
- ・日本人学生と交流し、多くを学んだ。
- ・研究室は想像以上に革新的だった。
- ・研究室訪問は十分ではなかった。対応してくれた人たちは良かったが、特に何も学ばなかった。
- ・大学病院での研究を聴けたのが素晴らしかった。最先端の器械を見られて良かった。
- ・言葉の壁があって、あまり理解できなかった。でも、訪問は良かった。
- ・学生は親切で優しい。徳島大学をととてもよく紹介してくれた。
- ・研究室訪問は私にとって大切だった。よくまとまっていて、清潔だった。
- ・研究室訪問は面白く、興味深かった。
- ・キャンパスも研究室もポルトガルと似ていた。

- Japanese Culture Experience: Traditional Japanese Music、 Calligraphy and Tea Ceremony

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (33名)	4 (5名)	3	2	1

Comments:

- ・このプログラムに参加する前から日本文化のことを少しは知っていたので、新鮮味がなかった。
- ・実際に体験できるのは良い。
- ・邦楽と茶道が印象に残っている。
- ・初めてのことばかりで、とても面白かった！
- ・茶道が気に入った。(3名)
- ・中国人学生としては、書道体験は少し退屈かもしれない。

- ・完璧。
- ・このプログラムの中で、一番良かった。これらの伝統は、とても良かった。
- ・楽しかった。
- ・お茶は美味しかった。
- ・邦楽は良かったし、茶道は興味深かった。
- ・茶道と書道、楽しかった。
- ・良かった。もっと時間が必要だと思う。
- ・日本で、お茶とお菓子をいただく、初めての経験だった。
- ・邦楽、お茶、共に楽しかった。私の母語はアルファベットなので、書道は楽しかった。
- ・伝統儀式を実際に体験できることほど良いものはない。
- ・書道と茶道は素晴らしかった。日本の伝統を見つけない。
- ・初めての体験だった。本当に素晴らしかった。
- ・お茶は本当に素晴らしかった。抹茶は今までで最高だった。
- ・インドネシアにはこういった文化がないので、新しい体験だった。
- ・日本文化はとても素晴らしく、よく受け継がれている。
- ・TV で見たことがあるだけのことを実際に体験できたのは面白かった。
- ・茶道が良かった。本当の抹茶を味わい、茶道の様式を教えてもらった。
- ・茶道は今までこういった体験をしたことがなかったので、本当に良かった。良い体験だった。
- ・抹茶はとても美味しかった。
- ・邦楽と茶道は穏やかだった。芸術が大好きなので書道はとても楽しかった。
- ・邦楽も茶道も良かった。でも一番良かったのは、書道だ。自分の作品を部屋に飾れるから。
- ・もっと日本文化が好きになった。
- ・文化やその価値を感じることでできた良い体験だった。
- ・文化や伝統を体験できて、面白かった。
- ・新しいことや異文化を学ぶのは好きなので、素晴らしい体験だった。これをずっと続けてください！

- Lecture "Japanese Culture" by Associate Prof. Moreton

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (29名)	4 (8名)	3 (1名)	2	1

Comments:

- ・とても良い体験だった。
- ・モートン先生の講義は素晴らしかった。
- ・色んなことを学んだ。
- ・モートン先生はとてもユーモラスだ。この日は活動が多すぎて、ちょっと疲れた。
- ・とても面白かった。(5名)
- ・ちょっと大まかだった。
- ・忍耐強く親切だ。
- ・とても良かった。
- ・興味深かった。(3名)
- ・講義はちょっと長かった。
- ・モートン先生は面白かったが、少し眠かった。
- ・良かった。多くの事を学んだ。
- ・徳島や日本に関する有益な情報量の多さに圧倒された。
- ・日本文化を理解する手助けとなり、興味深かった。
- ・講義は楽しかった。面白かった。
- ・楽しく解説してくれて、理解しやすかった。
- ・多くの日本文化を学んだ。
- ・行く前にレクチャーを受けることができて良かった。
- ・面白かった。カナダ人の先生が教えるというのも良かった。
- ・歴史のように物事の始まりを知るのは大切だ。日本文化は世界に刺激を与える。
- ・ためになった。
- ・モートン先生はとても面白かったし、講義はとても楽しかった。

Peer Learning Activities: Tokushima Castle Museum and Hyoutanjima Cruise with Japanese high school students

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (27名)	4 (9名)	3 (2名)	2	1

Comments:

- ・日本人の高校生はとても良かった。彼らから新しいことや面白いことを学んだ。
- ・高校生たちともっと色んな所に行って、もっと話してもいいと思う。
- ・良かった！高校生と交流できて楽しかった。
- ・日本の高校生はかわいらしい。
- ・博物館ではビデオ上映など多くを見ることができた。日本の高校生はかわいらしい。
- ・完璧。
- ・面白かったが、コミュニケーションを取るの簡単ではなかった。
- ・高校生はかわいらしかった。また会えたらいいなと思う。
- ・良い体験だった。
- ・面白かった。
- ・高校生たちは十分に準備をしてくれていたと思う。
- ・本当に引きつけられた。
- ・良かった。一部の高校生は、徳島大学生同様、英語がいま一つだった。時々、コミュニケーションを取るのが難しかった。
- ・十分な情報をもらえなかった。
- ・日本の高校生はとてもフレンドリーだ。
- ・博物館は中も庭も両方、素晴らしかった。高校生たちは本当に熱心で思いやりがあった。
- ・日本の歴史を学んだ。
- ・日本の高校生たちと交流できて、楽しかった。日本のことを知ることができた。
- ・徳島城博物館は素晴らしかった。日本の高校生と交流できて楽しかった。
- ・徳島は良い街と文化がある。
- ・インドネシアを訪れたばかりの高校生と出会った。たくさん話して、お互いの文化をシェアした。
- ・良かったが、一部の高校生の英語は分かりづらかった。
- ・一つ、提案したいことがあります。高校生は事前にスピーキングのテストを受けさせた方がいい。高校生のことを知りたかったが、コミュニケーションできなかった。
- ・日本の高校生は本当にシャイだったので、どう接していいか分からなかった。
- ・博物館では多くを学んだ。その当時にいるようだった。
- ・高校生たちはいい子達だったし、賢かった。みんなで和気あいあいとできた。
- ・高校生はとても良かった。彼らから多くを学んだ。
- ・高校生はしっかりしていて親切だった。
- ・高校生と友達になれたり、共に過ごせたのは良かった。
- ・日本とポルトガルのお城の違いが分かり、興味深かった。高校生にとっても多くの外国人学生と交流できるのはとても良い経験だと思う。

- Kagawa Local Culture Experience: Marugame Castle and Handmade Udon

Very Interesting	----	Average	----	Not Interesting
5 (29名)	4 (8名)	3 (1名)	2	1

Comments:

- ・悪くないと思う。
- ・うどん作りは本当に面白かった！丸亀城を上がるのは本当に暑かったが、そこからの景色は良かった。
- ・丸亀城を上がるには暑すぎた。うどんはとても美味しかった！
- ・うどんは美味しくて、作る工程も面白かった。うどんと中国の麺の違いを知れた。
- ・完璧。

- ・疲れた。(2名)
- ・とても良かった！うどんは美味しかったし、独特だった。
- ・良かった。
- ・うどん、美味しかった。
- ・良かった。うどんは美味しかった。
- ・とても面白い体験だった。(2名)
- ・良かった。地元の人が城のガイドをしてくれたら、もっと良かった。
- ・お城は丘の上にあり、私はハイキングが好きじゃない。うどん作り体験は本当に面白かった。すごく良かった。音楽も最高。
- ・とても良かった。楽しい体験だった。
- ・自分で作ったものを食べるのは初めてだった。うどん作り体験はこのプログラムで一番、面白かった。お寺も素晴らしかった。
- ・日本でまたうどん作りに挑戦したい。とても美味しかった。
- ・うどんは美味しかった。自分で作ったうどんを友人たちと一緒に食べるから特に美味しかった。
- ・うどん作りは本当に楽しかった！
- ・面白かった。
- ・本当に良かった。うどん作りは本当に楽しく独特だと知った。
- ・うどん作りは初体験だった。友達とうどんを作るのは面白かった。
- ・特にうどん作りが良かった。
- ・お城は素晴らしかった。歩くのが好きなので、自然もあり、良かった。うどんは本当に良かった。自分達で作って食べるのが良かった。
- ・あまり良くなかった。特にお城。上まで歩かないといけなかったから。とても疲れた。うどんは、まあ面白かった。特に作っている時。
- ・うどん作りはこのプログラムの中で最も良かった活動の一つだ。丸亀城は暑かったが、美しかった。もっと涼しい日に行きたかった。
- ・うどん作りはとても楽しかったし素晴らしい体験だった。
- ・一番、良かった。自分の専門を料理に変えるから。うどん作りは本当に面白かった。

4) What do you think you learned the most through this summer school?

- ・プロとしての姿勢。日本人のプロとしての姿勢は素晴らしい。些細な事であってもすべてにおいて注意深い。自分に必要な事だと思う。小さなことも丁寧にやる。成功への道だと思う。
- ・様々な国の文化の違い (2名)
- ・コミュニケーションといっぱい笑ったこと
- ・日本文化を学べた。日本語力が向上した。
- ・他国の友人がたくさん、できた。日本文化を多く学んだ。
- ・日本文化を学んだ。(4名)
- ・日本人の生活を学んだ。
- ・新しい友人を作ることを学んだ。自分の英語力と日本語力を実践できた。日本文化の美しさを学んだ。
- ・日本の伝統文化
- ・多くの友人ができた。(2名)
- ・このサマープログラムで自分の視野が広がった。外国の文化を知ることができ、友人もできた。
- ・英語力の向上
- ・自分の視野が広がったことが一番、大きかった。日本文化や徳島の人達を知り、世界に友人ができた。
- ・やっぱり、日本の文化です。先進国は我が国にない強さを持っている。日本人達は穏やかだ。
- ・コミュニケーションの重要性
- ・異文化、英語、自分の研究にとって有意義だった。他国の大学に関する事も知ることができた。
- ・日本について多くを学んだ。
- ・徳島大学
- ・阿波踊りと料理のスキル
- ・日本の伝統と文化の豊かさ、日本の教育システムと学生たちの勉強スタイル、素敵な日本人達

- ・世界からの友人たちとのコミュニケーションを学んだ。
- ・日本文化と歴史。日本人のマナー、丁寧さ。慣習は興味深かった。多くを学んだ。
- ・徳島の人達と彼らの慣習は良い手本となるだろう。
- ・様々な国、言語、文化を持つ人達との交流の仕方を学んだ。個人的には、英語力向上の大きな機会だった。
- ・社交性と多くの日本文化体験
- ・徳島大学生とのキャンパスツアー、研究室訪問、茶道と書道
- ・日本文化は本当に興味深い。
- ・努力と熱意があれば、何でもできると学んだ。以前は、日本に来るのは夢だった。でも今、日本にいる。努力を続けた結果、日本に来ることができた。
- ・文化が違って、仲良くなれることを学んだ。お互いにコミュニケーションが取れば、障害はなくなる。
- ・様々な国の人達が集まっても、一つになれることを学んだ。色んな活動のおかげで、新しい関係も作れ、すぐに仲良くなれた。
- ・それぞれの文化や伝統に感謝と尊敬をもつこと。
- ・文化への感謝、理解、受容。異文化の様々な人達と共にいるのは、簡単なことではない。調整が必要だし、思いやる必要がある。
- ・日本文化や伝統を学んだ。友達もできた。彼らの国のバックグラウンドも知ることができた。
- ・日本文化、特に徳島の文化を学んだ。

5) Please tell us what should be improved in this program.

- ・最後の二日間は移動が多いと感じた。
- ・続けることが大切だと思う。とても良かった。
- ・ほとんど全て良かった。
- ・もっと時間を長くしてほしい。楽しむ時間がない！
- ・サマースクールの期間が短すぎると思う。
- ・できるなら暑い中、外を歩きたくない。ジャーナルシートがない方がより楽しめると思う。
- ・もっと地元の人や日本人学生と触れ合うことがあってもいいと思う。
- ・もっとお互いに話す機会がほしい。
- ・なし。(5名)
- ・午後の休憩を取ってくれるとより良いと思う。
- ・集合時間を遅らせてもいいと思う。時々、とても眠かった。
- ・ホテルから別の場所へなど、移動が多すぎた。日本人学生ともっと友達になりたかった。
- ・英語と日本語の会話能力。
- ・素晴らしいプログラムだ。うどん作りのように、自分たちで何かする機会がもっとあれば、より良くなると思う。
- ・学生からの情報。
- ・もっと詳しく徳島を探索したい。
- ・活動内容の運営。お昼にかけて気温も上がり暑くなる。暑い時間帯は室内の活動をして、外出は午前中にした方がいい。
- ・全てが予想以上でした！続けてください！
- ・このプログラムは本当に面白い。
- ・プログラムはもう完璧です。
- ・大学での研究のシステムに関してもっと活動があればいいかも。
- ・もっと多くの国が参加すれば、より素晴らしいだろう。
- ・素晴らしかった。
- ・高校生とのひょうたん島クルーズ。
- ・香川での宿泊先が二つに分かれたこと。
- ・特になし。すべてが良かった。ただ、もう少し長くてもいいかも。そうすれば、参加者はもっと色んなことを体験できる。
- ・サマープログラムは完璧だった。新しい文化を教えてくれた。
- ・プログラムは成功です！改善点なし。ただもう少し長い方がいいかも？
- ・丸亀城はあの時間はダメだと思う。暑すぎる。気候の良い時に行けば、完璧だろう。

- ・なし。全てが良かった。
- ・日本人学生と一緒にアクティビティーがもっとあればと思う。

6) Do you recommend your juniors to attend our summer school, if we hold it next year? (Please circle)

Very Much	-----	Average	-----	Not at all
5 (34名)	4(3名)	3	2(1名)	1

7) Do you want to come back to TU for your study?

Very Much	-----	Average	-----	Not at all	無回答
5(14名)	4 (18名)	3 (5名)	2	1	(1名)

- ・もし徳島大学に建築の研究分野があれば。
- ・将来、徳島大学に戻ってきて、建設分野で修士の勉強をしたい。

8) Overall、 what do you think about this summer program?

- ・間違いなく最高の夏だった。日本の地方文化を体験したり、日本人学生と共に学ぶことができた。多くの事を学んだ。今後の自分の研究にも活かせると思う。
- ・世界を見て、他の学生と知り合い、日本文化を体験できる、良い機会となった。世界への文化の扉を開くことだ。とても良いと思う。
- ・本当に良いプログラムだ。シングルルームでプライベートな時間とスペースが持てた。くつろげた。
- ・良かった！ありがとうございました！
- ・とても面白くて日本文化を体験し、多くを学んだ。
- ・完璧！（2名）
- ・本当に完璧なサマープログラムだ。12年間、英語を学んでいるが、皆とコミュニケーションを取ることができなかった。悲しかったが、やる気につながった。試験のためではなく、上手にコミュニケーションを取れるように英語を学ぶ決心をした。他の国からきた学生とも友達になった。このサマースクールに参加できて良かった。機会があれば、また戻ってきたい。
- ・このプログラムに来る前は、きっと退屈で徳島は魅力のない場所だと思っていた。けど、一日滞在してみたら、自分の考えが間違っていると思った。素晴らしい市に親切な人々。このプログラムが大好きになりました。自分の友人たちにこのプログラムを勧めるだろう。温かく歓迎してくれた日本人学生、先生方に感謝します。
- ・完璧で細部まで行き届いたプログラム。
- ・このプログラムで多くのものを得た。夏休みをただ寝て過ごすのではなく、こうして有意義なことを体験するのは、大学生にとって良いことだと思う。自分の今後のキャリアに関してもプラスに働くと思う。
- ・とても有意義だった。日本で多くを学んだ。
- ・このサマープログラムに参加できたことに感謝します。自分の人生にとって良い経験になると思う。サマープログラムを通して日本文化を知り、友人を作ることができた。有意義で素晴らしかった！
- ・タイトなスケジュールだったのが、残念。できれば二週間以上、滞在したかった。
- ・学生にとって有意義。
- ・楽しかった。ありがとうございました。
- ・本当に有益でした。楽しかった。
- ・本当に有益でした。
- ・サマープログラムは本当に素晴らしかった。日本を知り、楽しむことができた。
- ・今までで一番、興味深いプログラムでした。日本のことを、たくさん体験し、知ることができました。感謝しています。
- ・サマープログラムは本当に素晴らしかった。世界の友人たちとのチームワークなどを学んだ。

- ・サマープログラムは真面目さとリラックスが同時にあるものだった。日本をより深く知るだけでなく、参加学生に自分達で日本探訪する楽しさをくれた。このサマープログラムは本当に良い経験だった。
- ・素晴らしかった！！日本について多くを学べた。参加できたことに感謝したい。本当に楽しかった。
- ・素晴らしかった！（2名）
- ・興味深く意義のある時間だった。日本文化を学び、つながりを持てた。
- ・素晴らしかった！本当に素晴らしいサマープログラムだ。
- ・本当に素晴らしかった。こんなに面白いとは思っていなかった。
- ・楽しい
- ・良い文化体験だと思うし、大学の勉学が大変な学生にとっては、全体的にリラックスできるプログラムだった。また戻って来たいし、戻って来る！また会いましょう、徳島。
- ・楽しかった。
- ・このサマープログラムは素晴らしかった。違う環境で自分の知見を広げられた。グローバル化の一助となるだろう。
- ・いつもと違う夏だった。忘れないだろう。徳島大学、ありがとう！
- ・このサマープログラムは完璧だった。友達と一緒にとても楽しむことができた。もう終わってしまうのが寂しい。本当に楽しかったし、日本文化、伝統を知ることができた。また徳島に来たい。
- ・サマープログラムは素晴らしい体験だったし、新しい友人を得る良い機会だった。日本文化や伝統を知るという冒険だった。
- ・このプログラムは良かった。色々な国の学生と出会い、多くを学んだ。日本文化や日本を学んだ。これからはずっとこのプログラムを続けてほしい。より多くの参加者が来るだろう。ありがとうございます。

9) How did you think about "Awa Dance Festival"?

Very Good	----	Average	----	Not Good
5 (37名)	4(1名)	3	2	1

- ・素晴らしい！（4名）
- ・素晴らしい！最高！美しい！
- ・とても面白い。本当に楽しかった。
- ・阿波踊りはとても面白いです。私は大好きです。
- ・本当に面白かったです。参加してよかったと思ったもんです。

10) Did you think observation of "Awa Dance Festival" should be a part of this Summer School?

Very Much	----	Average	----	Not at all
5 (35名)	4 (1名)	3 (1名)	2	1(1名)

- ・必要です。

11) Write any comment about "Awa Dance Festival".

- ・誰でも自由に参加できるし、人々も嬉しいし、素晴らしいと思います。
- ・全国各地からの踊り方の気持ちをよく感じました。長い歴史を持つこの文化はきっと永遠につけるでしょう。
- ・伝統をまもって今までもすごく盛り上がって、子供でも参加して、えらいことだと思う。いつまでも初心を守られるように。

- ・見れてよかった！
- ・素晴らしかった！阿波踊りを体験する機会をくれて、ありがとうございました。忘れません！
- ・皆と一緒に踊るのは楽しかった。
- ・阿波踊りをずっと覚えているだろう。日本の特徴を教えてくれた。
- ・町は活気をたっぷりあります。みなさんは楽しいです！
- ・本当に素晴らしい！忘れないだろう。日本文化、風習が深く印象に残った。踊り手の心や熱意を感じた。暑い中、感動をくれた踊り手達に感謝。笑顔も良かった。この祭りがずっと続きますように。
- ・祭りに参加している皆がとても楽しんでいて、本当に面白かったし、今度は、自分も祭りに参加して踊りたい。ありがとうございました。
- ・大規模な祭りで、楽しかった。自分も踊りに参加したいと思わせる祭りだった。ありがとうございました。
- ・とても良かった。素晴らしい体験、魅力的な活動。また観たい。どうもありがとうございます。
- ・本当に面白い日本の伝統。素晴らしい体験だった。
- ・私は阿波踊りが大好きです。私は中国でコンピューターで阿波踊りを見ます。日本へ行って阿波踊りを見学したいです。阿波踊りはとても面白いですね。
- ・日本の文化を深く経験しました。みんなは自信で阿波踊りを深く愛して踊りながら楽しそうに笑って、その笑顔から日本人の情熱を感じました。
- ・とても面白い。にぎやかです。
- ・とても感動しました。徳島に来る前に授業で学ぶことができました。でも自分で体験するのは本当に嬉しいです。機会があれば絶対もう一度来ます。
- ・阿波踊りは日本で最も興味深い祭りの一つだと思う。もし機会があれば、自分も踊りに参加したい。近い将来、徳島に戻ってきて踊りたい。ありがとうございました。
- ・素晴らしかった。阿波踊りが好きです。
- ・素晴らしい！の一言につける。祭りは私の想像を超えていた。みんな賑やかでコスチュームもゴージャス。もと時間があれば、もっともっと楽しめたと思う。
- ・とても面白かった。阿波踊りの雰囲気が好きだ。
- ・阿波踊りは面白いし、ユニークだと思う。皆、幸せそうで、祭りを楽しんでいて。
- ・阿波踊りはとても美しい。
- ・とても良かった。
- ・面白かった。(2名)
- ・本当に楽しく面白かった！
- ・祭りを見れて、本当に素晴らしい体験になった。
- ・素晴らしい！最高！(3名)
- ・老いも若きも皆、楽しんでいて。
- ・祭りはとても楽しかったし、踊りたくなかった。素晴らしい文化体験がこのサマースクールの目的は満たしている。
- ・とても面白かったし、帰りたくなかった。最後までいたかった。
- ・フィリピンの祭りと似ている所があるが、フィリピンでは観光客と一緒に踊らない。観光客も皆一緒に踊れるのは本当に良いと思う。
- ・阿波踊りを見ることができて、良かった。阿波踊りは年齢を問わず、人々を一つにする。世界中の人々がこの踊りを見に来るだろう。
- ・阿波踊りは素晴らしい体験だったし、とても美しかった。この伝統、文化を体験できて素晴らしかった。
- ・素晴らしかった。
- ・踊り手は素晴らしく、祭りは大きな音が鳴り響いた。踊りに参加したいと思った。

2.3.7 成果報告

2018年8月6日（月）から8月13日（月）にかけて、徳島大学国際センターはサマースクール「徳島であおう！」を開催した。このサマースクールは毎年継続的に行なわれており、今年度は5カ国（中国17名、フィリピン7名、インドネシア8名、ベトナム6名、ポルトガル1名）からの学生39名、引率教員1名、日本人学生12名（延べ人数）、地域住民10名、高校生21名の合計83名が参加した。

国際センターのサマースクールは将来本学の大学院に入学する留学生や交換留学生として本学で学ぶ学部学生をターゲットとしている。そのため、本サマースクールに参加した学生が学部や大学院に入学すること、そして「徳島にまた来たいと思う」気持ちを育むことを念頭にプログラムを企画・運営した。

国際センター主催のサマースクールの目的と内容は、次の4点である。

1. 徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供：『海外の協定大学から参加する学生が将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうための動機付けと情報提供を行う』

国際センター教員による「徳島と徳島大学の紹介」や徳島の文化に関する講義、日本語学習、常三島・蔵本地区での「キャンパスツアー・研究室訪問」を行なった。

「キャンパスツアー・研究室訪問」に関しては、参加者の専門に合った学部を訪問し、本学の最先端の研究を直接見聞きし、ユニークな研究や教育活動について知ることができようように企画した。総合科学教育部、医科学教育部、先端技術科学教育部に分かれて行った。

参加者が将来本学で学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分野に関する情報と「どの教員の研究室で学ぶことができるのか」といった研究分野や研究室に関する情報を得ることはとても重要であり、今回の「徳島大学紹介」や「研究室訪問」でこれらの情報を具体的に提供できた。

2. 徳島・日本文化、そして日本人を理解するための学びの機会の提供：『本学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう。また日本人学生や地域住民と交流することで日本人と日本文化を理解してもらう』

今回のプログラムでは、徳島の文化に関する講義、地域の方々の協力による書道・茶道体験や邦画、藍染め体験、大塚製菓工場などの企業見学、徳島市での阿波踊り見学、地元高校生と徳島を知る街散策といった、多様な文化理解と交流の機会を提供し、参加者から高評価を受けた。短いプログラムではあったが、本学学生、地域の人々や高校生と交流したりして、参加者は多くの時間「生の」日本人と接することができた。徳島や日本の文化を知っただけでなく、自分たちが実際に体験することで日本や徳島を知り、日本人の行動や感情を理解してもらうことができたと考えており、この点は高く評価できると考えている。

3. 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化：『日本人学生や高校生を含めた地域住民が海外からの参加学生と共に活動することで国際的な視野を広げ、日本の外に目を向け、国際理解、多文化理解をすすめる、本学ならびに徳島地域のグローバル化を促進する』

日本人学生や地域の方々にとっても、本サマープログラムは有益なものであったと考える。特に、本学の日本人学生や地域の高校生にとっては、年齢の近い多くの外国人と接する機会は貴重で、彼らの国際理解や異文化理解をすすめることができた。

一方、本学日本人学生や地域の方々には様々な活動を通して外国人の目線や考えを知ることができたであろう。本学の国際化に加えて、地域の国際化を支援することも本学の役割であり、本プログラムはこの点でも貢献できたと考える。

4. 個々の参加者のグローバル化と世界的なネットワークの形成：『様々な国や大学からの参加者が出会いお互い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促す。また、本学と参加者、参加大学とのネットワークを形成する』

様々な背景をもった参加者（海外協定校からの学生、日本人学生、地元高校生、地域の人々）が直接交流する中で、参加者には自文化について説明を求められる機会が多く生まれた。各参加者が紹介し合うときに、自然と相違点だけでなく共通点が見つかり、自文化と他文化に対する理解や関心が高まり、他文化を尊重し、知ろう、理解しようとする姿勢が見られた。

加えて、参加者は様々な活動を通してお互いを知り、SNS などを使って今後も連絡が取り合えるようなネットワークを形成する機会となった。

3 総括

徳島大学においては、本年度は総合科学部サマープログラム、先端技術科学教育部サマースクール、及び国際センターサマースクールの3コースのサマープログラムを実施した。本学は、3コースのサマープログラムを実施するようになってから7年目になるが、各コースのプログラム実施時期は全学の委員会である「サマープログラム等実施委員会」において検討し、昨年度と同様、全プログラムの中心となる時期を7月下旬-8月初旬に合わせた。その結果、3コースの出席者全員が参加できる「合同交流会」を8月7日に開催することができた。3コースのプログラム全体を合わせて海外の協定校等から合計55人の学生と引率教員が本学を訪れた。

総合科学部サマープログラムと国際センターサマースクールは学部学生を対象とし、先端技術科学教育部サマースクールは学部高学年または大学院生を対象としたプログラムを提供している。それぞれのプログラムの中で実施される英語による授業や研究室訪問、キャンパスツアー等により海外からの学生は徳島大学を知ると共に茶道や和楽器、藍染めなどの日本文化を体験することができた。また、県内企業訪問や文化体験等を通じて日本の伝統文化や徳島を知ることができた。海外から参加した学生は徳島や日本に対する理解を深め、徳島や日本を身近に感じることができたものと思われる。一方、本学から参加した日本人学生にとっては海外に関心を持つ良い機会となり、グローバル化の推進にも一定の効果があったものと推測している。さらに、サマープログラムの学生募集を通じ、徳島大学を海外にアピールすることができた。

海外から参加した学生の中には、本学への留学を希望している学生もいた。このプログラムの狙いは海外からの参加学生が徳島を体験し、将来、本学への本格的長期留学に繋げることにある。巻頭言にも記載したとおり、本学のサマープログラム・サマースクールは先発部局で11年、後発部局でも7年になる。しかし、プログラムの効果の定量的検証はこれまでなされていない。これまでもサマープログラムへの参加をきっかけに本学への留学を決定した学生がおり、一部、優秀な留学生の確保につながっている。アンケート等を実施し、これまでの成果を検証するとともに、より効果的な企画を策定する必要がある、また、その時期に来ていると思われる。

なお、海外からの参加者からは、これら3つのサマープログラムについて、高い評価を得ており、次年度も引き続き実施する予定である。

4 今後の課題とまとめ

【サマースクール全体としての今後の課題】

- ① 大学全体の取組みとして、統一性のあるコース設計
- ② 交流行事等のイベントの合同実施
- ③ 期間や規模等、サマープログラムの定義の明確化
- ④ 担当教員、事務職員の業務量の軽減
- ⑤ 関係部局からの経費、業務の支援
- ⑥ 参加者受入れ国の拡大
- ⑦ 参加者が滞在する快適な宿舍の確保
- ⑧ 天候不順の際の対応、代替案の準備

【総合科学部サマープログラム】

(1) 実施体制

当初は少人数の教員で実施してきたサマースクールであるが、授業担当教員が年を追うごとに増加しており、授業、実習、生活全般などの面で関わるのが可能となった。平成28年度に改組が行われ、協力教員・授業担当教員が総合科学部と教養教育院に分散した。連携を今後も継続し、コース間の協力を行なうことが肝要であろう。

(2) 本学に在籍する学生について

授業やエクスカージョンに参加した本学に在籍する学生の満足度は非常に高い。しかしながら、授業や期末試験との重なりから、泣く泣く参加を断念するケースが少なくない。サマープログラム、期末試験の時期ともに、この時期が適当であり、難しい問題である。

(3) 全般的なこと

育達科技大学側からは、多くの学生が参加を希望している。国際センターのプログラムと合わせて、今後とも多くの希望者を受け入れたい。研修の実施にあたっては、多額の補助を受けるとともに、事務方の関係各所には、多大なる支援をいただいた。ここに記して感謝申し上げますとともに、次年度以降もご協力のほどよろしくお願いしたい。

【先端技術科学教育部サマースクール】

JASSO 留学生交流支援制度短期研修・研究型プログラムが採択され、参加学生に対して渡航費・滞在費等の支援を行った2015年度は、海外から約50名の参加があった。一方、プログラムが採択されなかった2016年度、2017年度および本年度の海外からの参加者はそれぞれ28名、17名および9名と減少した。サマースクールは夏休みの期間に開講され、航空運賃が1年の中で最も高い時期である。海外からの参加者は、主に中国、台湾、マレーシア、インド等発展途上の国からであり、そのほとんどが私費で参加している。参加学生への支援のための予算確保が強く求められる。

なお本年度は、JASSO プログラムの追加採択の通知が 11 月にあり、この予算を有効活用するため、サマースクールプログラムと類似したイベントを 3 月に開催することを計画している。

先端技術科学教育部サマースクールの開催は、例年 7 月最後の日曜日から約 10 日間行っているが、これは前期授業の開講時期でもあることから在校生にとっては参加し難い日程といえる。日程を少し後ろにずらすことで在校生の参加は容易にする反面、阿波踊り期間に入るため従来使用していた宿舎の確保は困難となる。そのため、今後は学内施設も含めた宿舎施設の再考が必要と思われる。

今年度は、海外からの参加者に対して個別の研究室インターンシップを 7 月 31 日に実施した。参加申込時に記載のあった「希望する研究室」または「当人の研究内容」等の情報をもとに、関連する各系・コースの国際連携教育開発センターの運営委員を通してインターンシップ先の選定を行い、いずれの学生も関連する研究室においてインターンシップを実施することができた。マッチングを行った研究室におけるインターンシップ体験であったことから、参加者からの評価が非常に高かった（アンケート結果より）。当初はインターンシップを全日行うスケジュールを計画していたが、他のイベントとの関係で午後のみイベントとなった。また、受け入れ先への負担も考え、担当教員には 1 時間程度の対応でも良いとの連絡を行っていた。本イベントは、海外からのサマースクール参加者が共通点を多く有する在校生と出会う機会になっていることから、終了後も交流を継続している学生も多くいた。多くの留学生にとって文化の異なる徳島（日本）における日常および教育環境に加えて、研究環境・生活に関するイメージを取得する良い機会となったと思われる。また、在校生にとっても英語で研究内容の説明を行うのに加え、海外の大学の日常・教育・研究環境に関する生きた情報を得る絶好の機会となっていることから、今後は在校生の国際会議発表、更には海外留学へのモチベーションアップに繋がることを期待している。

最後に、サマースクールの実施体制について述べる。これまでは、サマースクールに積極的に協力いただける学科（専攻）がある反面、協力を仰ぐのが難しい学科（専攻）も存在すると述べてきたが、インターンシップの実施も加えると、一部の領域にとどまることなく全学科（専攻）の協力を得た。今後もより広い専門分野の海外学生が参加できるサマースクールの開講が実施できる体制の構築が必要である。そして徳島大学で実施されるサマースクール申込窓口の統一や日本文化体験等、他のサマースクールとの共通部分は国際センターが担当する等、これまで以上にサマースクール運営業務の効率化を図るべきだと考える。

【国際センターサマースクール】

1. 日程・期間・運営等の課題

今年度は台風などの問題はなく、計画通りすべての予定を実施できた。

猛暑の季節にサマースクールを開催するため、暑さ対策が求められる。屋外での行動・活動をなるべく少なくしたが、街を歩いて徳島を知る活動などは今後も行う計画である。高松の丸亀城見学などは再検討する。藍染やうどん体験など、屋内での活動を増やせるかどうか検討する。

例年どおり、徳島で本場の阿波踊りを体験してほしいと考え、日程を 8 月 12 日までにしたが、この日は徳島で宿泊ができないため、夜、バスで神戸へ移動し宿泊した。阿波踊りに関しては、ほとんどの学生が「よかった」と回答していることから、今後も阿波踊りを鑑賞できる日程で行っていきたい。しかしながら、お盆期間中の神戸のホテルも予約が難しくなっており、今回は 2 箇所に

分かれたために不便であった。また、料金も高かった。日程の変更やホテル宿泊の場所など、来年度に向けて検討が必要である。

予算の都合上、今年度も参加費を徴収した。今後も予算と参加費、支出をよく検討し、ふさわしい期間と内容、参加費を考えていきたい。

今年度は事前キャンセルが少なく、キャンセルの補充を行うこともできた。なるべくキャンセルをしないように参加大学と学生に連絡し、また一定の期日を越えるとキャンセル料を徴収することを言及したためだと思われる。今後も、できるだけキャンセルが出ないように募集していきたい。

ホテルに関しては、これまで宿泊代が安いことを優先してキャンパスから遠いホテルを使用していたが、問題も多かったため、今年度は徳島駅前のホテルを使用した。全てがシングルルームであり、非常に快適な部屋を提供してもらえた。シーツ交換をしないことやアメニティグッズを毎日提供しないことを条件に、適切な金額で宿泊することができた。次年度も引き続き同じホテルの利用を考えたい。

年々、自分のスマートフォン・タブレットを持参し日本でのネットワークに接続する参加学生が増え、今年度はほぼ全員がなんらかの形で日本でネットに接続できるような状況であった。今年度も参加学生とのやりとりをLINE、WeChat、Facebookで行ったため、連絡がスムーズにできた。SNSは学生同士の情報交換にも使われ、またプログラム終了後も徳島の台風を心配しているコメントが掲載されるなど、参加者同士や徳島大学のスタッフとの繋がりが続いている。このようなSNSの活用の有効活用を今後も進めていく。

2. プログラムの内容の充実

総合科学部や先端技術科学教育部のサマープログラムとは異なり、国際センターのサマースクールは学生の専門の学習を提供することはせず、徳島大学の紹介、徳島・日本の文化理解や日本人学生・地域の人々との交流のための活動を行い、概ね好評であった。

参加学生のアンケートでは、専門の授業や日本語学習の時間を増やしてほしいという声もあるが、参加者の専門がバラバラであり、日本語のレベルも個人によって大きく異なるため、現状のプログラムの内容を大きく変更することはできない。今後は総合科学部、先端技術科学教育部のサマープログラムとの連携も考慮し、日本語学習、企業見学など、合同交流会以外に共通で行うことができる内容とその実施を検討する。

研究室訪問に関しては、徳島大学の良さをもっと理解してもらうために、内容の充実を図るべきである。特色ある、興味深い研究をしている教員を探し、直接見学の交渉をして、参加者の専門に関係なく見学に行くといったことがあっても良いだろう。あるいは、上記の述べたように学部との連携を強め、学部の教員に専門の授業を行ってもらったり、実習を企画してもらったりするなどが検討できるだろう。徳島大学のイメージアップの方法を、今後検討していく。

プログラム最終日には、グループに分かれてプログラムを振り返り、自分たちが得たことを共有するワークショップを行い、修了式で各グループの振り返り発表を行った。また、学生には毎日短いジャーナルを書いてもらい、毎日の活動を振り返ってもらった。アンケートではこのような「振り返り」がめんどくさい、もっと観光を増やして欲しい、といった声もあり、本サマースクールの趣旨を理解していない学生がみられた。サマースクールが遊びや観光を提供しているのではなく、異文化に直接触れ体験し、多文化を理解して自分の成長に繋げる、といった場を提供することであるということを、しっかり参加学生に理解させる工夫がさらに必要である。

地元高校生との交流に関しては、参加希望の高校生 20 人を対象に、英語で徳島を紹介するための事前講座を 4 回行った。本学教員が英語での会話の仕方、英語で行う徳島の文化の紹介の仕方などをレクチャーしたため、効果的に交流を行うことができた。今後も継続的に行なっていきたい。

一方、本学の日本人学生の参加の方法は再検討を要する。テスト期間中及び夏季休業期間中にサマースクールが行われるため、日本人学生の参加が十分に得られなかった。参加してくれる学生はとて積極的であったが、限られた人数になってしまった。高校生対象の事前指導と同じように、日本人学生にもメリットと思われるような事前指導などを計画してみる必要があるだろう。

今年度は英語あるいは日本語でのコミュニケーションができないという状況はなかった。冊子にも詳細なスケジュールやキャンパスマップなどの情報を掲載することにより情報共有を図り、学生、スタッフに混乱はなかった。

5 担当者一覧

サマープログラム等実施委員会実施委員長

金 成海：教授（国際センター）

サマープログラム等実施委員会実施委員

田久保 浩：教授（総合科学部）

谷岡 哲也：教授（医学部）

松香 芳三：教授（歯学部）

山崎 哲男：教授（薬学部）

安澤 幹人：教授（理工学部）

長宗 秀明：教授（生物資源産業学部）

三隅 友子：教授（教養教育院）

橋本 智：教授（国際センター）

総合科学部サマースクールプログラム

田久保 浩：教授（大学院社会産業理工学研究部）

村上 敬一：教授（大学院社会産業理工学研究部）

吉岡 宏祐：准教授（大学院社会産業理工学研究部）

先端技術科学教育部サマースクール

森賀 俊広：教授（大学院社会産業理工学研究部）

安澤 幹人：教授（大学院社会産業理工学研究部）

アントニオノリオナカガイト：准教授（大学院社会産業理工学研究部）

コインカーパンカジマドゥカー：講師（大学院社会産業理工学研究部）

呉 雨濃：助教（大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター）

浅田 沢：大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター

国際センターサマースクール「徳島であおう！」

高石 喜久：副学長（国際センター長）

金 成海：教授（国際センター）

橋本 智：教授（国際センター）

内藤 毅：特任教授（国際センター）

坂田 浩：准教授（国際センター）

TRAN HOANG NAM：講師（国際センター）

福岡 佑子：特任助教（国際センター）

モートン常慈：准教授（国際センター：併任）

事務局

福川美千代：国際課長

松尾麻里子：国際課国際企画係長

西野 陽子：国際課留学生支援係長

大塚 綾子：国際課留学生支援係事務補佐員

サマースクールTシャツ

2012年、第一回国際センターサマースクール「徳島であおう！」の開催に際し、参加者や日本人学生サポーター、教職員の一体感を高め、互いに協力して国際交流を推進することを目的に青色のTシャツを作製した。キャッチフレーズ「徳島であおう」は、①徳大生も含めた徳島の人にあう、②参加した各国の仲間にあう、③自分を見つめ直して新しい自分にあう、の意味が込められている。このTシャツのバックの文字は国際センターの地域サポーターでもある書道家の作で、以後、毎年国際センターサマースクールで使用されていたが、2015年からは、各コース色違いのTシャツを作製することとなった。

参加者の良き思い出になると同時に、帰国後にもこのTシャツを手にとり徳島大学への関心を深めてくれることが期待される。



総合科学部（ライトブルー）



先端技術科学教育部（ライトグリーン）



国際センター（ブルー）

バックの文字「徳島であおう」は書道家の吉野美苑（吉野美保）氏（「美苑書の会」主催者）による作

徳島大学サマープログラム 2018 報告書

編集発行：徳島大学サマープログラム等実施委員会
徳島市南常三島町1丁目1番地

発行年月日：2019年3月31日

